

明治天皇や勝海舟にゆかりあり！？ 葛塚の稲荷神社



祭神 うかのみたまのみこと
倉稻魂命

祭礼 春 4月13～14日
秋 9月 7～8日

創立の詳細はわかりませんが、さまざまな資料から考えると、1733(享保18)年か1734年ころ、ここに小さな祠が建てられたようです。初めは、この一帯を治めていた新発田藩家老 溝口内匠家の邸内にまつられた開墾宮だったであろうと考えられます。のち1750(寛延3)年2月7日、同家の溝口富昭が稲荷神社を建立し、以後、葛塚の産土神(自分が生まれた土地の神)となったようです。

昔から葛塚の町の人々の氏神として、信仰を集めました。葛塚の豪商 三條屋(弦巻家)が中心となって寄進した玉垣や、狛犬・灯籠など葛塚の人々が奉納した石造物がそれを物語っています。

社殿と神輿庫は、2008(平成20)年7月8日に国の登録有形文化財になりました。現在の社殿は、1815(文化12)

年に建てられた約200年前のものです。2001(平成13)年、一部改修が行われたものの、建築当時の様式を残しています。

秋祭りは、葛塚まつりとして大いににぎわいます。境内は夜店が連なり、多くの人が集まります。また、参道から社殿に勢いよく走り込む「他門の神楽」の入れ舞いや、近くで行われる灯籠の押し合いは見ごたえ十分！ ぜひ足を運んでみてください！

参拝の際は、上も見上げてみてください。社殿にかかる「稲荷大明神」の額は、明治天皇の外祖父 中山忠能の筆によるものです。また、参道の赤い鳥居にかかる「正一位稲荷大明神」の額は勝海舟の伯父 男谷彦四郎思孝の筆です。

● ● ● MEMO ● ● ●

新発田の安田蕉鹿(1768～1854)が著した『蕉鹿年代記』の寛延3年2月7日の項に「葛塚稲荷宮御遷宮、溝口左膳殿御建立」と書かれています。溝口左膳はのちの家老溝口内匠富昭(1721～94)のことです。

ただ やす
中山 忠能(1809～1888)

権大納言。和宮降嫁に尽力し、明治維新後は新政府の要職につきました。明治天皇の母 中山慶子の父です。

お だに ひろ たか
男谷 思孝(1776～1840)

通称を彦四郎といい、幕府の役人として水原代官(任期1821～1823)をつとめました。勝海舟の伯父です。

北区のまつりに行ってみよう!

■ 葛塚まつり 9月6日～8日

葛塚の石動神社・稲荷神社の秋の祭礼を中心としたお祭りです。



石動神社に奉納される正尺の神楽
(6日)

稲荷神社での他門の神楽の入れ舞
(7・8日)

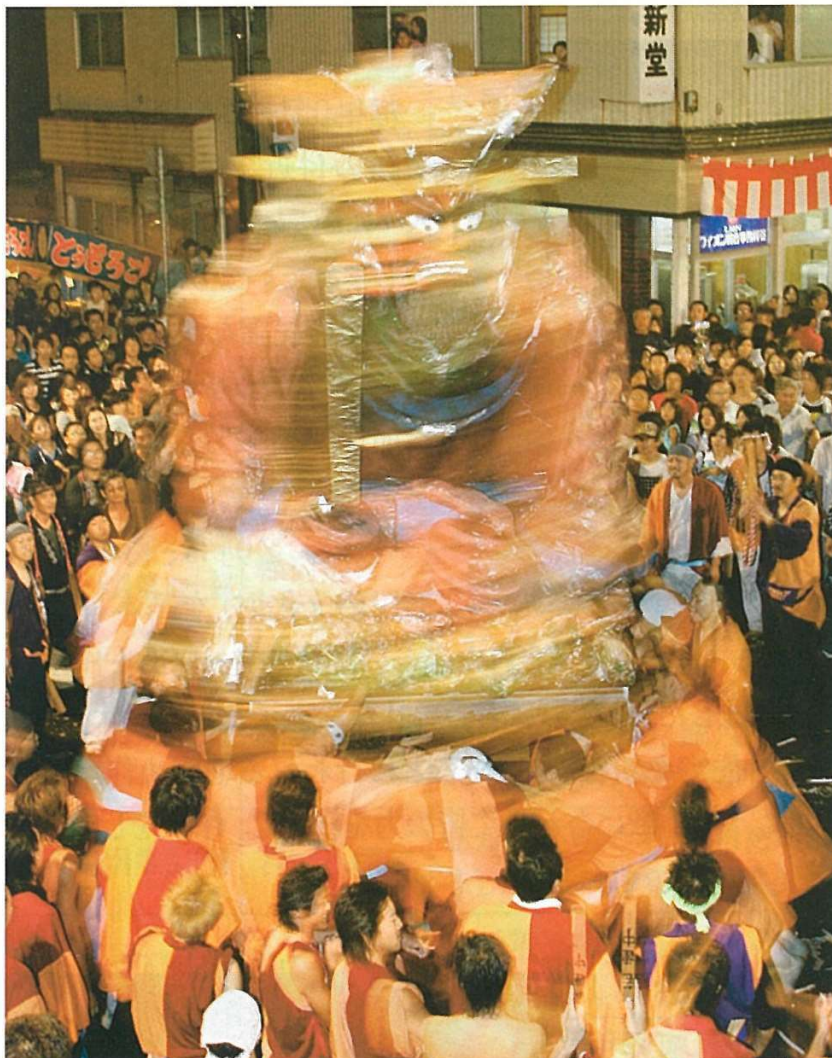


ジュニアマーチングバンドとよさかによる
パレード (6日)

期間中はこども灯籠や山車がまち
を練り歩きます (6～8日)

まつりのフィナーレ 灯笼の押し合い 9月8日夜

威勢よく灯笼がぶつかりあうと、人々も熱気に包まれます
けんか灯笼と呼ばれることもあります



● ● ● MEMO ● ● ●

葛塚まつりのはじまりは、葛塚市と深い関係があります。

1761（宝暦11）年10月8日、葛塚市を開くことが正式に幕府から認められました。この許可を受けた日を記念して、葛塚稲荷神社・石動神社で祭りが行われるようになりました。村人は10月8日に祭礼を行おうとしましたが、旧暦の10月はすでに冬期で、なにかと不便なので、1762年（宝暦12年）から8月7日・8日を石動神社と稲荷神社の祭りの日と決めました。これは、月が変わっても開市を許可された日を忘れないためです。

1872年（明治5年）12月に太陰暦から太陽暦に変わりました。そのため翌年からは、旧暦の8月8日にあたる新暦9月8日に稲荷神社の秋季祭礼が執り行われています。（石動神社の祭礼の日にちが変わった理由は、今のところよくわかりません）

また、水原代官所で葛塚市を開くことが許可されて帰ってきたとき、人々が喜び、サン俵を頭にのせて神楽を舞ったのが、他門の神楽の始まりと伝えられています。